

北 ぞらくろあ

第119号 2026年2月1日（毎月1日発行）



簡易委託駅で営業時間内では窓口が開いている



木次線では珍しい島式ホームで列車の行き違いが可能

木次線ストロール⑬

加茂中駅

「京都加茂神社の社領で古くから商業で栄えた町」


1月18日日曜日、午前9時過ぎ、車で庄原の自宅を出発。雲一つない快晴、空が青く澄んでいる。路傍や田畑には、雪が少し残っている。早くも衆議院選挙のポスターを貼る看板を設置する作業をしている。車で音楽を聴かなくなると、生活からいろんなものが削ぎ落されてゆく。それは進化が、やはり老化なのか。

国道183号線を東上、届け物があつて備後落合駅の傍を通り過ぎたが、駅のホームに人影はなく、列車が不通になっているようだ。保安上、仕方のない判断だが、雪景色のローカル線の魅力を発信できないのはもったいない気がする。183号線を少し戻り、国道314号線が交わるT字路を右折し

て、油木川沿いの道をどんどん登って行く。沿道の雪の量が増えてゆく。七ヶ所山トンネルを抜けると、一面の雪景色だった。さらに登ると三井野原スキー場が見えてくる。かつては身近なスキー場として大いに賑わったが、今は三井野ドライブインが運営する小規模なゲレンデがあるだけ。家族連れがグループが散見できる。JR西日本で最も標高が高い駅（727m）三井野原駅を通過して、今度は国道を下る。出雲横田駅の近くを通り過ぎる頃には、雪

はほとんど消えていた。後述するが、ある場所に寄り道して、幡屋駅に到着したのは12時20分頃。予定していた12時7分発の宍道行きに乗り遅れてしまった。次の便は13時47分、待ち時間用の文庫本を入れ忘れた。最近、こういう凡ミスが増えている。手持無沙汰で駅の周囲を探索。ラッパサイセンが咲いている花壇を囲む石の中に、金屎（鉄滓）を発見、かなり大きい。二両編成の列車に乗ったのは二人。5、6人の乗客がいて、ほとんどが高校生だ。日曜日なので遊びに行くのだろう。赤川沿いの広々とした田園地帯を走って、5分弱で加茂中駅に到着。料金は190円。

ホームに下りて、既視感を覚えた。島式ホームと言って、島のよう線路を敷設、列車が行き交うことができる。先月号で紹介した一畑電車・秋鹿町（あいかまち）駅と同じ構造なのである。木次線では珍しく、起点駅である備後落合駅と宍道駅を除けば、島式ホームを有しているのは加茂中駅だけ。ホームの解説板によると、出雲神話にちなんだ駅の愛称は事代主命（ことしろぬしのみこと）、ここは、京都上賀茂神社の荘園があったところだ。駅の北西に加茂神社があり、事代主命が祭られています。大國主命の御子神で、



発行：どら書房

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会